

ザ・チャレンジ

(大学受験編)

3月になり「大学入試も、国公立後期試験の発表を待つのみ」という時期に差し掛かりましたが、今年はそのだけではなく、例年以上に「補欠繰り上がり」を待つ受験生が多くなっているのではないのでしょうか。

文部科学省の「入学定員超過による私立大学等経常費補助金の不交付の基準を厳しくする」という方針から、それを順守する私立大学が増えました。その背景に「地方創生」、つまり都市部の大規模大学への学生の集中を抑制し、地方の大学を活性化させるという意図がありますが、これにより正規合格者数が前年比で9割前後になる大学が多く出ています。そして補欠合格者を多めに出し、少しずつ繰り上げをしながら実入学者数を段階的に増やしていく動きになっているようです。

少し整理すると、①早慶などの難関私大に合格をしていた生徒が東大などの難関国公立大学に合格②その早慶合格者が辞退す

Q. 繰り上げ合格者数が減少か？

ることによって、準難関私大に合格した生徒が補欠繰り上がりになる③さらにその準難関私大の合格者が辞退をし、その補欠者がまた繰り上がる—というのが補欠合格の図式になるわけですが、その難関私大や準難関私大の正規合格者数が減っており、かつ補欠者を繰り上げたとしても、昨年までの合格者数には達しないように調整をするわけですから、その人数も少なくなり、中堅レベルの大学で補欠者の繰り上がりが行われるまでに時間がかかる、あるいは繰り上がり「なし」ということになるのです。

来年度もこの傾向は続きます。引き続き難関私大はもちろん、中堅レベルの大学でも非常に厳しい受験になることは間違いありません。したがって、高校1、2年生はこれまで以上にしっかりと準備をしていく必要があります。多くの大学は各入試の合格最低点を公表していますが、過去の問題を復習するといった対策をしていく中

で、その最低点を狙うのではなく、プラス5~10%を普段から意識して取り組みましょう。また、各大学の入試制度も改めて確認をしておいてください。以前から紹介しているように、TEAPや英検などの外部英語試験を導入する大学は年々増えていきますし、早稲田大学国際教養学部ではついに外部試験がほぼ必須(完全必須ではないが、受験をしていないと最初から最大で15点のハンディを背負うことになる)になっています。受験は情報戦でもありますので、着実に準備をし、自分に合った受験方式を探ってみてください。

(CG高等館 東進衛星予備校)

※幼児教育から各段階の進学対応まで、多様な学び、の情報を紹介。次回は小学校受験編。



大学進学情報紙「TOSHIN TIMES」

CG高等館 東進衛星予備校各校舎で無料配布中

A. 高校1、2年からしっかり準備を